

空き家の適正管理について

空き家の適正管理についての相談がふえている。

それぞれ周辺住民と市の努力で解決しているが、空き家の現状はどうなっているか。また「狛江市あき地の管理の適正化に関する条例」に「空き家」も加えて、市が持ち主と交渉する際の法的根拠とすべきと思うが。

平成18年6月現在、空き家の掌握件数は6件である。空き家に関しては、防犯・防災上の観点を中心に置いたものと取り扱っており、財産権の問題で、なかなか踏み込めない状況にある。条例等をこれから研究していく。

田岡 恭子

高齢者福祉の充実と改悪介護保険法への対応について

昨年10月から特養など施設利用者の居住費・食費が自己負担となり全国的に退去者が出るなど問題となっている

①狛江市での影響は。②デイサービス利用者への利用料補助は。③介護保険の財源不足は、国庫負担50%から25%への引き下げにある。元に戻すことについて。④退去者は出ていない。低所得者の方へは補足給付を実施。施設においても利用者へのサービス低下がないよう一定の努力をしている。⑤引き続き状況を見極め対応していく。⑥国庫負担割合の戻しについては市長会を通じ国への要望事項精査の中で話していく。

さらなるごみ減量を進めるための生ごみの堆肥化について

①ごみ有料化で減量はどこまで進んだか②家庭・集合住宅の生ごみ堆肥化はどこまで進んだか③市民農園利用者や庭のある家庭に呼びかけるPR紙をつくり、楽しく生ごみを減量するグループを市内に広めること④子どもや市民を巻き込んでアクションを起こすこと。

①有料化後、前年対比で1814t、19%の減量である。②ほかし・家庭用処理機・集合住宅で1005カ所。③プチトマトの会等で生ごみの減量PRとグループを広める。④関係課と協議し、市民活動組織と連携してアクションを起す。

西村 あつ子

歩行者の安全対策について

①品川道のこれまで行ってきた安全対策は。②安全対策が必要である。③歩道の色分け等の対策は。④こども幼稚園付近の交差点は改善できないか。⑤自転車のマナー向上についてキャンペーン等の取り組みはできないか。

①品川道のこれまで行ってきた安全対策は。②安全対策が必要である。③歩道の色分け等の対策は。④こども幼稚園付近の交差点は改善できないか。⑤自転車のマナー向上についてキャンペーン等の取り組みはできないか。



ガードレールとポールについて、確認後検討していく。⑤広報掲載や交通安全週間期間中などを利用し、事故防止の啓発活動を実施する。

子育て支援・保育行政について

①乳幼児医療費助成の拡充計画は。②北部地域に病児保育の増設を。③公立保育園で経費削減とサービス向上できれば民営化の必要はない。④公立園の安心感、安定感を生かし市民要望に応える取り組みを。⑤正規職員削減での保育体制の確保は。

①20、21年度に小・中学生の入院医療費無料化を検討②小田急線の北側にも1カ所増設できないか検討する③二つの課題をクリアできるならば民営に移行することはないと考える④その方向で努力したい⑤嘱託職員・臨時職員などを必要など適宜補充を考える。

藤田 鋭

交通利便性の向上を

①小田急バス宇奈根線を延伸して二子玉川までつなげてほしいという声が出ています。小田急バス、東急バス、世田谷区の動向はどうか。②喜多見駅へのアクセスも重要である。当面タクシーが常駐するよう世田谷区を通じて近郊会社に要請していただきたいがどうか。

①世田谷区の宇奈根地区の交通不便を解消する検討の中で、狛江から宇奈根路線の延伸という話もあるが、さまざまな問題があり、現在は世田谷区、狛江市とバス事業者で調整、検討している。②以前にも世田谷区にお願いした経緯があると思うが改めて検討する。

今後の魅力あるまちづくりにとって「音楽の街」を進めることが重要だ。①どのような基本的考え方であるのか。エコルマの主催公演の質を維持し、また優れた若手演奏家に会場を提供し、演奏会の実現を。②構想策定委員会の学識経験者はどのような方か。

音楽の街「狛江」に向けて

①市民文化の振興を図る最初の取り組みとして「音楽の街」がふさわしいと考える。構想は今後委員会で議論いただく。②一人は榊原徹さんで狛江市在住の国内外で活躍されている方、もう一人は四中の横田先生をお願いしたいと考える。

①破綻したまちづくり総合プラン、実施計画、定員適正化計画、行財政改革推進計画、緊急行動計画等々とたくさん計画がつけられた。今度はアクションプランが出された、矢野市政になってつくられた計画で、具体的に大きな成果が上がったものの記憶がないが。アクションプランは、実施計画や行革推進計画等を包括した呼称。各計画の期間等の統一を図り、相互に関連を持たせながら全体的な整合性を図ったもので、各計画を統合して新しい計画を策定したのではない。

道下 勇

景観材に配慮した街のデザイン化の取り組みについて

①市の街のデザイン化について。②18年度整備の緑野小学校通学路と市道32号線のストリートファニチャーへの取り組みは。③狛江市で設置した看板で汚れたもの街並み景観となしでいらないものの改善について。④都市公園、児童遊園のデザインや景観への配慮は。

①他区市の都市景観づくりへの取り組み状況などについて調査・研究。②幅員が2.5mの歩道内には、ガードレールなどが必要なたためベンチなどの設置は難しい。③看板類の更新の際に、機能を損なわない範囲で改善の検討。④遊具は、安全を尊重していく。

①実施事業の精査を行い、実施時期の繰り延べ凍結を検討し、さらなるサービスカットを市民に押し付けるのでは。②新たな歳入確保とは何か。③市長在任10年間の基金の取り崩し額と市債の残高推移は。④事業債が減り、財源対策債増加は後年度の市民に借金を残す。

市長が招いた財政破綻からの再建策について

①適正な定員管理や人件費の圧縮を図る。②受益者負担の適正化、活用見込みのない財産の処分など。③基金は26億円、市債は8年度23.8億5600万円、17年度24.5億1100万円。④臨時財政対策債は普通交付税の振替、減税補填債は減税による補てん。

①七小・四中跡地の売却が計画通りの額で売却できない場合の対策は。②20年度から予定の中学校の弁当給食は保護者のつくった弁当持参も可能か。③新図書館の建設は狛江駅南側の放置自転車置場でも建設が可能か。市民センターを市民活動センターにしては。

不明朗な親医療証のあり方について

狛江市ホームページ上でひとり親家庭等医療費助成制度に対する説明と条例の内容に差異があり、又ひとり親に準ずる状況である人も対象になるにもかかわらず医療証は医療証と、市民にはひとり親家庭のみと誤解を受けやすい。改善の検討はできないか。

ホームページの記載については、正しく分かりやすいように修正する。医療証については、都の統一様式で、前回同様今後も都へ要望していく。医療証と保険証の氏名の違う場

同プランは21年度までの市政運営の根幹でありながら、新年度予算審議にも議会で提出約定期限に間に合わなかった。そこで①議会答弁の重さについて。②定員適正化以外に今後取り組む改革は何か。③計画通り実行するための不返転の決意について問う。

狛江市アクションプランに対する市長の政治姿勢について

①公的な発言、説明であり、その重さは十分認識している。②全事務事業の見直しを行い、現在その着実な執行を図っている。その上で評価を行い見直ししていく。③市民福祉の向上と魅力あるまちづくりに向け、今後も不返転の決意で取り組む。

①世田谷区の宇奈根地区の交通不便を解消する検討の中で、狛江から宇奈根路線

小安 勝

狛江市立保育園の耐震診断、改修工事を早期に実施せよ

ゼロ歳から5歳まで600人の子どもたちを月曜日から土曜日、通常8時30分から午後5時15分まで6園の市立保育園で保育をしているが、建築年数は31年から34年を経過している。子どもたちが生活している保育園の耐震診断、改修を早期に実施せよ。

①世田谷区の宇奈根地区の交通不便を解消する検討の中で、狛江から宇奈根路線

①世田谷区の宇奈根地区の交通不便を解消する検討の中で、狛江から宇奈根路線